



出会い

第七十号 令和元年九月

健康道場
サラ・シャンティ
神戸市灘区八幡町
3-6-19
T&F: 078-802-5120

新しい時代を楽しく生きる

清水 正博

「出会い」70号でサラ・シャンティは24年目です。ここに至るまで毎度ながらまったく自分で予測しなかったことを書き綴ってきましたが、「出会い」68号「君民一体の靈性の時代」、69号「日本が世界の主役の御代到来」と、初めて読まれる方はビックリするような内容の文章を書かされて来ました。そんな流れのなかで、世界文明の中心が東経135度の神戸へ移ったという文明法則史学800年周期説を理解すると、摩耶山から甲山までの六甲山の中腹には数々の神社やお寺、古墳などと古代文明の痕跡を示す文化圏があったからで、六甲山に纏わる神々の遺跡も発見され瀬織津姫やククリ姫が現れ世界を平和へ導くようにメッセージを降ろしてくるのだと。最近も渦森台の本住吉神社は神武天皇が最初に来た処、御影に白山ククリ姫が祀られる滝場がある、六甲の石清水八幡も瀬織津姫と繋がる、近くの春日神社と南紀の「江須崎」の春日神社のエネルギーラインの発見などと神話の書き換えが起っています。

こうしたこともサイババの神秘体験から始まったわけですが、彼はどこか高いところから見ていて私の事を熟知しており、六甲山のエネルギー線に住んでいる私を選んで一働きさせようと、物質化現象を希望したら見せてくれ、道場が欲しいと思ったら与えられ、サラ・シャンティという名前を戴いて、ご先祖

様や日本の神々を働かせ、私の性格や思想も見抜かれ、歴史観も美意識もお見通し、と思わざるをえないことが起こり続け、皆様も含め過去にご縁があった人たちが集まる場所になりました。

靈能者に云わせると、私の背後にはご先祖様が沢山見えるそうです。私にはそんなものは見えませんが、若い頃からずっと必要な時に必要な人が現れて指導を受け、終わった次々と私の前から消えていく。この場合は実在の人物ですからご先祖様ではありませんが、不思議に思っていました。こうしたことが誰にでも起こる日本が神の国だと云われる由縁だと思っていますが、でもそんなおかげで今の私があるのですから、ご恩を感じてお役目を演じていくよう努めねばと思うのです。

そんな縄文以来の御先祖様の魂が存在する面白い国に住んで、世界最古の縄文の歴史が次々と発見される時代をエンジョイしながら生かされているというのも有難いことです。欧米中心の物質文明が衰退して縄文の靈性が復活してきそうな変化が起っている兆候を伝える役目を私が演じさせられているのも、天壤無窮の令和の時代と様々な意味でシンクロしてきて、それも六甲山で檜崎皇月が発見した古文献力タカムナを伝える講座を開催してきたお陰なのかもしれません。

アメリカ、メキシコ、キューバに出かけて学ばされた世間の常識とは違った価値観、歴史観で生きてきた体験から、経済、文化、環境、気候変動、戦争など世界中で起こった様々な問題を見てきて、時代意識が変化する新しい時代の始まりを語ってきました。明治維新以降もたらされた物質的価値観に対する反動から今、2万年の縄文文明の精神が甦ってきて

日本の復活が始まるうとしていますが、様々な問題を克服し、どんな生き方へ変えていくか、これからの日本は面白くなっていきます。だから日本人は選ばれて長生きする時代が始まるのです。

2018年の日本人平均寿命は女性87.3歳、男性81.3歳と発表されました。これを信じて72歳の私は、9年後に死ぬことになりました。でも私の人生はやっとこれから本番ですから、まだ30年以上は生きなければ使命を全うできません。私の父は99歳、母は97歳と長寿家系ですので自信はありますが、武士道精神を発揮して事故や災害の心配を感じるようにしなければなりません。平均寿命に囚われ、病気になるってお金に困る事を考え、保険に入ろうと仕向けられ、かんぽ生命保険の3000万件もの不適切販売契約のようなことが起こります。

私も高額国民健康保険は払っていますが、家族はだれも健康診断には行かないし、ワクチンなど受けません。予防のための善意と信じて健康診断に行くと、小さな症状でも病名をつけられ検査漬け、薬漬けにされます。高齢者ですから病気になるって当たり前ですと云われ、病院に通っている人を多く見て来ました。高齢者を騙そうとするワナがいっぱいありますので、常日頃から用心して情報をチェックしておかないとつかり引っかけまいます。

政府は100歳時代が来るから今の調子で医療・介護給付費が増大すれば10年後は66兆円になる、だから消費税を上げるなんて言っており、その66兆円が医療業界でどう分配されるかマスコミは調べません。ですから庶民が賢くなって健康管理を

しつかりすれば、悪い医者は廃業となり医療費は半額以下になり、10%の消費税も無駄になります。れいわ新選組の山本太郎がこの医療業界の悪行の背景にあるマフィアの実態を語れば面白いことになり、消費税は簡単に廃止できます。

医者要らずの生活を実践する人は意外と多く、私もその内の一人ですが、70歳の誕生日頃に油断して風邪をこじらせ、仕方なく20年ぶりに医者へ行った。レントゲン写真を撮られて肺気腫と診断された。一度壊れた肺胞を元に戻すことはできませんと云われ気管支を拡張させる薬の治療で通院が必要だと。私は単なる風邪だと思っていたので、それつきり医者には行っていません。でも止めようと思って止められなかったタバコが、肺気腫と云われたおかげで止められたので感謝しています。

半年後の6月末に、ビワの収穫で木に登っていたら梯子から落ちて意識不明になり救急車で運ばれて入院。レントゲン写真を撮られたので尋ねたら、肺気腫はありませんといわれました。退院後の別の医院のレントゲンで再確認しても同じ。一体どうして治したか説明が長くなるので省きますが、代りに小さな甲状腺腫瘍が見つかりました。それもほったらかして治しました。病気は自分で作っているのですから、自分の体に注意を向け、原因は何かをいろいろ考えて治す努力すれば大丈夫だと思っています。

参考までに、野口英雄は「すべての病気の原因は酸素欠乏症である」、ノーベル医学賞受賞者オットーワールドは「ガンの発生原因は酸素不足による」、元労働科学研究所長小山内博は「ガン細胞は酸素が欠

乏した細胞に増殖し、脳卒中、心臓病、動脈硬化、肝臓病、子宮ガンなどの病気も酸素の不足が最大の原因である」と言っています。ですから病気にならない秘訣は有酸素機能をしっかりと維持することだと信じているのが私の流儀です。

もともと25年前、こんな健康法をつたえたいと思ってサラ・シャンティを創ったのですが、ビル建設後に借金の返済が始まり、会社は辞められず、帰宅後と土日はビル管理と道場の仕事に追われ、トライアスロンと杖道だけは健康のために続けたいので、自分の講座を開くユトリなどなかったので定年後はと思っていたら、カタカムナや古神道に興味が生まれ、本を読むのが楽しくなり、ますます運動不足になりました。ですから72歳になってやっと自分の健康管理のために健康法を確立せねばと思ったわけです。

45歳の時トライアスロン大会で入賞できるようになったのは、気功や瞑想とランニングを一体にして有酸素機能を強化するコツを習得し、おかげで会社の同僚から「清水は120歳まで生きる」と急にいわれるようになったのです。そして60歳定年後は杖道を独自の健康法として教えようと考えたのです。でもそのコツを伝えるには魂や精神論が入ってくるのでじっくり取り組まないは無理な気がしました。ですから私が120歳まで現役で頑張れる健康法を72歳までに編みださねばと思ったのです。

日本文化には独自の美意識が溢れています。だから住み易さは他の諸国と比べ格別良いと思ひ、海外旅行など2度と行かないぞと思っていました。サイババの恩寵を授かったことから1度はインドにお礼参

りに行かねばと思っていたら、氣功家中健次郎先生との運命的な出会いがあったのです。1度目は60歳でサイババのアシラムへ、2度目はブラーマクマリスからの招待、3度目は聖人サイマーと中先生の企画で2013年1月、1億人以上のヒンドゥー教徒が聖なる川ガンジスに入り罪を洗い清める、地球上最大の祝祭マハ・クンブメーラへ行きました。この時は「学生期」「家住期」「林住期」「遊行期」というインド人の生き方に興味があったからです。

世事のあらゆる執着を捨て無一物になり、乞食のように生きている「遊行期」の人たちの生活の実態を見てみたいと行つたのですが、気候、風土、文化、宗教などの様々な点でインド的だと思ひ、物欲の旺盛な人種にとつて必要な生き方だと関心を失いました。日本の家族三世代が役割分担して一緒に生活し、生涯現役を貫く生き方が理想的だと思つていますが、昔のような広い家と庭や畑があれば理想ですが、なんとか都市生活でもできる工夫が欲しいものです。

「寿命とは集合意識に支配されます。人は文化、経済、宗教、地理、気候などの影響を受けながら、その裏側で国や学校、マスコミなどの情報操作を受けています。そんな集合意識に気づいて影響を受けないようにすると、お釈迦様のような天上天下唯我独尊の境地になれば長生きできると思ひます。インドではお釈迦様の広めた仏教が衰退したのもヒンドゥー教のカーースト制度の支配力が大きいからですが、そのインドで日本人仏教徒が活躍するのはなぜなのでしょう。インドの不可触民を救済するため日本人が天上の神さまたちから選ばれています。その代表例が龍樹菩薩の夢告を受けたと云われる佐々井秀嶺上

人です。龍樹の遺跡復活にナーグプルに入り、マンセル、シルプルなどの仏教遺跡を発見し、ヒンドウー教の管理下にあるブツダガヤを仏教に奪還する戦闘的な活動をされ、死に目に何度会われても復活され、1億5千万人の仏教徒から尊敬され頂点に立つ存在です。これほど偉大な活動をする日本人の存在を世界の人は知っておくべきだと思います。他にも世界の片隅で活躍する日本人を紹介するテレビ番組が作られ、人気なのは嬉しい事です。

気功家の中健次郎先生にも影響を与えた日本山妙法寺を開いた藤井日達上人は、戦前からインドで仏教復活の活動をされていますが、アメリカ先住民のデニスIIバンクス氏も大きな影響を受け、白人により接收された先住民の聖地ウーンデッドニーを占拠するなどの行動で世界的に有名になりました。311の直後にそのデニスIIバンクス氏を支援する7Gウオークの山田俊尚さんと共にサラシャンティに来られました。パレスチナに平和の火を持って行くアースキアラバンの活動を展開する遠藤暁及和尚も凄い人で、今年はローマ法皇に平和の火を届けたのには驚きました。私にはアレイダ・ゲバラを招いた時に、キューバに平和の火を届けようとして、航空機会社の許可がおりず断念したことがあるからです。

呼吸法や瞑想や運動療法で有酸素機能が高い好気性の環境にすれば、嫌気性環境が好きなガンは消滅するそうです。私も肺気腫と診断され、治らなさと云われ信じたらそれまででしたが、中健次郎先生の著書にも気功で肺気腫が治ったケースが紹介されています。私が45歳の時にすべての持病から解放され、それ以来医者いらずになった体験を『走りながら祈

る』で紹介したのも有酸素機能を高めることの大切を知らせたかったからです。

高齢者でもきつちり上手に日常生活で身体を動かすコツをつかんだ人は元気に生活しておられます。元気で病気になる元であるエネルギー体のアデノシン三リン酸を作り出しているミトコンドリアを元気にするのは酸素を上手に摂取するためにどんな運動が身体に良いかを知る必要があります。そうした色々ある健康法の情報を知っておくべきだと思います。72歳の私が健康法の講座を始めようと思ったのは、そんな情報を整理して伝える事を私自身の励みにしたいからです。

海外から帰ってから日本人らしい生き方を求めていたら出会ったのが「神の道を夢想う」という素敵な名前の神道夢想流杖道でした。おかげで神社で奉納演武をし、修験道の世界を知り、前世で縁を感じる人たちと出会って、非日常的な体験をさせられ、日本は八百万の神々の特別な働きがある国だと気づかされたのです。古武道とは「先祖様が神々からご神託を得て編みだされた世界、武は人を生かす道と気づき、人生が変わり今の活動が生まれました。古武道の神髄を知って日本人としての魂・心・体の調和と靈性を進化させる健康道を伝えよと与えられた天命かもしれません。

今この時代、70歳位で十分に生きて、いつ死んでも良いと思うのは勿体ないことです。三浦雄一郎さんは80歳で世界最高峰エベレストに登頂し、90歳で再挑戦を狙っている素晴らしい生き方を演じておられ、高齢者にとって刺激的な存在です。僕はそこまで過激ではないので、これまでの体験を生き方を実

践しつつ縄文以来の系譜がある杖道と武士道精神を次世代に伝えるために長生きしなければなりません。

311東日本大災害の時には阪神大震災の時以上の変化が起こると予感しました。伯家に伝わる預言で「明治天皇崩御後、伯家の祝神事を授けられない天皇の御代が100年続く」と日本の国体が滅亡する」と云われる期限2012年7月30日でした。カマカマナの土居正明先生から多くの人で「大祓詞」を千回唱えて暗唱しようとの提案があり、私も挑戦しました。その最終日7月30日に竹田恒泰氏の講演があり参加し縁が生まれ、その後香岐の島へ一緒に旅行できたのも不思議な縁となりました。

「これも先祖様が喜んでくださっていると思うのは大祓詞」を暗唱したおかげで次々と不思議なことが起こったからです。瀬織津姫の絵を描く北海道の田口陽子さんの個展を開催し、そこから土居先生の絵本「きみがよ物語」の絵を田口陽子さんが描くことになり、出版記念講演会もさせていただきました。瀬織津姫を祀る六甲ヒメ神社の磐座を最初に探して当てる大江幸久先生と出会い、瀬織津姫の絵で有名な瑠璃さんと縁が生まれスタッフになっていただけたり、大下伸悦先生の言霊字の連続講座が実現し、大変なお世話になりました。

さらに吉野信子先生のカタカムナ講座を開催したら沖繩の越智啓子先生との大きな流れが生まれ全国に広がりました。同時に「人は死なない」の矢作直樹先生や「愛の宇宙方程式」などの著者の保江邦夫先生が登場し、やっと私の神秘体験が語れる時代が来たと思われ走りながら祈る『が出版できました。矢作先生と保江先生のお2人には「縁がある」と感じていたら、お2人の連続講座を開ける展開になりました

た。こうした不思議な流れや神秘体験が起こるのもご先祖様の支援が得られる面白い国に生きている証で、そんな日本が今後どうなっていくかを見届けるためにも、120歳まで生きたいと私は思うのです。

昨年6月末にはカタカムナの土居先生が日ユ同祖論の大家である杣浩二先生や山陰神道80世の表博輝先生とサラ・シヤンティに突然来られ、バルセロナ、モンセラートへ行きましようかと誘われたのです。結局10月初旬に行った訳ですが、私のハイヤーセルフを教えてくださいのトリプルラブの原裕子さんにお願ひしていた絵と解説文が帰国直後に届き、ダビデ王だったのでビックリしました。それ以前から上森三郎さんが神戸町にイエスやマリア、ダビデの墓を発見してその活動に参加し、本も読んでいたので、紀元前からユダヤ人が亡命してきて日本の伝統の中にユダヤ文化の痕跡があると知ると、ハイヤーセルフがダビデでもおかしくないでしょう。

7月28日は宮崎貞行先生の「縄文の形と響きの文化を世界に発信しよう」の講座を開催しました。この時に『カタカムナ・ホツマ・先代旧事本紀、太古日本』の聖なる科学の著者エイヴリ・モローさんの紹介をしていただきました。世界の古史古伝を研究する33歳のアメリカの青年が3つの文献を世界最古として世界に向けて著書を執筆し、すでにブルガリアでは出版されています。今年10月2日にも9日間、表博輝氏の平和の祈りのお神楽を奉納する旅にローマ、パチカン、フィレンツェへ行くことになりました。これも想像を超えた行動ですが、世界中のすべての文明は縄文の日本から始まったことが世界の常識になる活動の一環として必要なのでしょう。

こうしてカタカムナが世界に知られるようになり、

この春から始まった「カタカムナと縄文文明から生まれた組紐講座」の河野典子先生は、吉野先生のカタカムナ学校で学ばれ、佐藤敏夫先生の「神の数学」も研究され、小笠原流礼法・小笠原家茶道古流講師・志野流香道などを総合して組紐の素晴らしい研究を沢山の写真と現物を見せてお話されます。吉野先生はお能の井上和幸先生とも連携して謡やお仕舞の稽古をされていて、日本各地の聖地巡礼をされ、カタカムナを言葉・音霊のご神事として取り組まれ縄文カタカムナ精神の復活の先導役を演じておられます。

令和から新しい時代が始まりました。中国の古典から選んでいた元号をやっと日本の古典にしたことは嬉しい変化ですが、こんな当たり前のことが出来なかつたのですから、どれほど中国離れが難しいことだったのか。次は欧米文化の影響から脱して縄文意識を復活することです。日本は世界一水の豊かな国で、天皇陛下は世界の水の問題のエキスパートです。六甲山に祀られる瀬織津姫は水の神さまで六甲の水は腐らないと世界で知られています。水をエネルギーにする先進技術も世界一で、水から水素と酸素を分離して1万5千度の熱を出すバーナーが開発され、それが来年から実用化が始まるそうです。

私は以前から雅子様は皇后になられたら復活されますと言っていましたので、令和になっての「活躍ぶりを見て本当に嬉しかったです。アマテラスが三ギノミコトに恒久平和の国造りを命じた天壤無窮の神勅として「令和」の時代が始まり、靈性の高い天皇陛下の時代がシンクロするように始まりました。世界を平和へ導かれる天皇陛下の祈りに私たち国民の祈りが加わってこそ世界は変わります。そんな日本

になって健康で長生きして、縄文意識の祈りの文化の復活を皆様と共に実現しましょう。

- 次に掲載の文章は
- ① 南山城三十八神社宮司東豊榮さんから 践祚大嘗祭その1
 - ② 小浜の徳庄博美さんからは水力発電や 森林復活の試みについての現状報告
 - ③ 福島の子供達の保養キャンプを毎夏 明石で開いている小野洋さんから現地 訪問のレポート
 - ④ 吉田博明さんの伊勢だよりは20回目。 9月16日(月・祝)十時半から吉田さんの 6回シリーズの講座が始まります。

践祚大嘗祭その1

南山城加茂の里三十八神社

宮司 東 豊榮

1. 昭和天皇から皇太子殿下への手紙
「手紙をありがとう。しっかりした精神をもって元気でいることを聞いて喜んで居ます。国家は多事であるが私は丈夫でいるから安心して下さい。
今度のような決心をしなければならぬ事情を早く話せばよかったけれど、先生とあまりちがったことをいふことになるので、ひかえて居ったことをゆるしてくれ。

敗因について一言いはずくれ、我が国人があまり皇国を信じすぎて、英米をあなどったことである。我が軍人は精神に重きを置きすぎて、科学を忘れたことである。

明治天皇の時には山県(有朋)大山(巖)山本(権兵衛)などの如き陸海軍の名将があったが、今度の時はあたかも第一次世界大戦の独国の如く軍人がバツコして大局を考へず進むを知って退くことを知らなかったからです

戦争をつづけければ 三種神器を守ること出来ず国民をも殺さなければならなくなったので涙をのんで 国民の種を残すべくつとめたのである 穂積大夫(重遠東宮大夫)は常識の高い人であるから わからない所があったら 聞いてくれ 寒くなるから心体を大切に勉強なさい」

9月9日 父より

明仁へ

この手紙は昭和20年9月9日に昭和天皇から皇太子であった上皇様へ送られた手紙の内容です。

天皇は手紙を書くところ自身で封をされて女官に渡される。女官はお文庫(オフミツコ)という箱に収める。この手紙は今から遡ること73年前、東宮の侍従長が書き写したものであると云われている。

内容は「子思う親心と先の大東亜戦争の敗因」についての昭和天皇のざざり一言である。大東亜戦争はその当時の軍人の力が強すぎ、昭和天皇も止めることが出来なかった。大戦は天皇の御名に於いて開戦され、戦争終結の最も難しい決定(終戦・敗戦)は天皇の詔に於いて為される。

この当時の日本人の殆どは軍部の戦争指導の下、誰もが本土決戦の決意をされる。私(東)の叔父はその準備の為に、千葉県の九十九里浜の偵察を実施していた。その時の住民の言葉が「阿波弁」そのものであるから叔父はびっくりしたと語る。

昭和天皇は米軍の武器の強さ即ち二つの原爆(長崎・広島)を経験された。これ以上戦いを続けると日本人の多くは抹殺される事とし、国民の命を第一に考えられ(天皇精神)涙を吞んで敗戦を認められたのである。幸いにして、新型爆撃機B29に積まれた原爆1号は東京に落ちなかったが、皇居の防空壕のコンクリート強化(新型爆弾が東京に落ちる)の連隊長代理総責任者に任命されたのが叔父だった。切腹を覚悟して昼夜を問わず突貫工事に明け暮れ、工事完成3か月期限限定の期限を守り完成させる。

工事当日の初日、工事の時間なき流れ(期限3か月)をよくし、ダンプカー渋滞を無くすため裏門の道づくりを早め、皇居内の「陛下の馬が通る門」を潰さなければ工事が遅れる為に宮内省の許可(時間がかかる)を得ないで壊しダンプカー渋滞を無くしたと云う(切腹覚悟の行為)ダンプカーを通した工事の1日目に不思議な事が起きる。

広い皇居芝生の反対側から百匹以上の雄の雉の行列行進をまじかに見たという。叔父の上手なこの時の雉行進の絵を私は見た。はっとする。場面変化。アメリカ大統領トルーマンはマッカーサーに指令する。天皇及び日本政府の国家統治の権限は、連合国最高司令官としての貴官に従属すること。

9月8日マッカーサーは東京に進駐し、午後には宮城のすぐ近くの第一生命ビルにGHQ本部が置かれる。

当時は昭和天皇の戦争責任に対してそれを必ず取らせなければならぬというGHQアメリカ本部と中国の高官もいたとされるが、戦争開戦時の「グルー米国外使」は貞明皇后と交際があり大の親日家である。

グルー大使は昭和天皇の戦争責任を回避しようと心がけ、アメリカに帰り各地を巡り講演したという。

その著者には「天皇存在は女王蜂のようなものであり女王蜂は沢山の働き蜂の命がけの愛を受け、この女王蜂を除外すると蜂の社会は中心を失いその結果ばらばらになり収集がつかなくなり蟻社会が弱体する。日本における天皇存在もそれに近い」と語っている。

国家対国家の戦争は勝った国が負けた国を裁き、敗戦国の皇帝・王様は死刑を免れないのが世界の常である。

しかし昭和天皇はそれを免れた、世界の歴史の流れを変えたのである。その理由をグルー大使は「天皇は女王蜂に近い」と表現される。

ここに「大嘗祭の世界的価値」の一つを見る事ができるのではないか。グルー大使は天皇を中心とする一千年以上続く日本国家の歴史が大変よく解かって居られる数少ない米国外使だった。天皇家即ち日本はグルー大使により救われたとも考えられる。

2. 天皇陛下のお祭りとお宮中三殿

大嘗祭理解の前提として天皇陛下は日々の生活の中、どのような場所で、いかなるお祭りをしておられるのか。まずこれを知る事から始めなければならぬ。本来は義務教育の段階で教えるべき教育の最重要課題であろう。国民は、元首天皇、象徴天皇の祈りの日々を知る権利を持っている。税金を払っているのであるから。

天皇陛下の1年は宮中祭祀から始まる。

元旦のまだ薄暗い午前5時半の四方拝からである。四方拝は「神喜殿」のお庭に「畳」を敷き、暖房なき周りを「屏風」で囲い、松明とお庭の光だけの明るさの中で、畳の上に正座なされる。そして伊勢神宮、天皇

陵、四方の神々を遥拝される。何故か。

80歳を過ぎても黙々と沈黙の中で、1時間から2時間の間、正座なされ天神地祇・天照大神・ご先祖天皇靈にご挨拶される陛下の御心は何処にあられるのか。

日本の国民の「弥栄と平安」そして「日本国の発展と世界平和」を神々に祈られる。何故。日本が栄え地球が栄える為である。この元旦の四方拝こそ、天皇とは何か、その天命と使命が見え隠れする。

宮中祭事に望まれる天皇陛下は御所で「潔斎」をされた後、モーニングに着替えられる。後、宮中三殿にある更衣所の綾綺(りょうき)殿まで車で行かれる。綾綺殿にいられると二人の侍従がお手伝いをされる。装束に着替えられた後、宮中三殿に向かう。陛下の宮中祭祀は大体年間30回前後あり。

3. 宮中三殿、

東京の中心の武蔵野の森の中に宮中三殿がある。中心の「賢所」は天照大神の御神体であられる御鏡をお祭りされる。向かって右に位置する「神殿」は天神地祇神をお祭りする。

向かって左には御皇室の御先祖の御魂(天皇靈)をお祭りをする皇靈殿がある。また、毎年秋に神嘗祭が行われる神嘉殿がある。

「賢所」「神殿」「皇靈殿」「神嘉殿」の四神殿は、一体に建つ。この四神殿は、陛下がお祈りをされる神聖な斎場であり道場である。

終戦・敗戦直前東条に頼まれた昭和天皇ほどの神殿でお祭りを為されたのであろうか。

真心を尽くしてお祭りを続けられる陛下の御心は、天照神界において日本国の繁栄(地球を祈念なされる天照大御神の御心を継承し、現代という「時

代の場合」でその御心を生かし実践される。天皇御祭事」の目的であられる。大嘗祭の目的か。

4. 大嘗祭に關係する天皇陛下のお祭り

・祈念祭—2月17日
年の五穀豊穰を祈願するお祭りだ。天皇陛下と、皇太子殿下が拝礼される。

即ち天皇陛下と皇太子殿下御一体のお祭りか。

・神嘗祭、賢所の儀—10月17日
伊勢神宮では本年に収穫された稲米を祭り感謝を捧げる神嘗祭が始まる。天皇陛下も皇居内の田んぼで「自ら育てられた稲穂」を神殿にお祭りされる。

このお祭りが大嘗祭の一つの原点か。

・新嘗祭—11月23日から24日

新しいお米を「御神靈」にお供えし且つ感謝を捧げる1年の中で最も重要なお祭りだ。

このお祭りには「宵のお祭り」と「暁の祭り」がある。「神嘉殿」に神々をお招きし、陛下が自ら初穂の御飯と黒酒・白酒をお供えられ、陛下もお召し上がりになられる。このお祭りも大嘗祭の原点の一つか。

・大嘗祭—11月の卯の日
「新天皇が踐祚即位後に始めて行われる」「一世代の新嘗祭」を大嘗祭という。

第40代天武天皇が古来から行われてきた大嘗(おなめ)を形式化され後大嘗祭が国家行事となる。

天武天皇が形式化なされたのは何故か。

大嘗祭は夕刻から翌日の明け方まで続く。

お供えするお米を栽培する国々の大地を選ぶ神事から開始される。新天皇は1年に渡り、数々のお祭りを重ねられ大嘗祭の準備に入られる。

麗しの国若狭より その声

合同会社おおい地域電力設立

徳庄 博美

暑い日が続きます。

田舎は海と山、田圃に囲まれて例年であればクーラーを入れる日は一夏に多くて4・5日でした。しかし今年



は暑くて連日クーラーの世話にならなければなりません。フランスだけでなくアラブ力さえも猛烈な異常高温であるというニュースが入ってきています。

しかし異常気象だけでなく政治や経済も近代の枠組みと秩序が次々と崩れて来ているように見えます。誰もコントロールできない混沌の到来です。米中、日韓、日米貿易戦争、ドイツ銀行の危機、世界的景気後退などリーマンショックを遙かに上回る世界恐慌がジワジワ進行しているように見えます。香港の若者の反乱、イスラエルの孤立と中東の戦争危機も高まっています。

さらに、田舎の目の前の生態系も見ても異変が進んでいます。昔はやかましかったアブラゼミの声が少なくなり、ヒグラシの声もあまり聞きません。蛭は山間部へ入らなければ里ではもうすでに見られませんがカエルもトノサマガエルが見られなくなりアマガエルが少し見られるだけです。ヨモギも少なくなり葉の香りもなくなってきた。コブシの花が今年は全然咲かない、知り合いは言います。レイチエルカールソンが農薬の影響として警告した「沈黙の春」の光景が目の前にリアルに広がり始めているのです。

どうも私たちは激しい産みの苦しみを体験しなければならぬようです。地球と人類の文明の一大転換

点にさしかかっていると見えます。アインシュタインは問題を生み出したマインドセット(思考様式)では問題は解決できないと言ったそうです。この地球規模、人類規模の危機から抜け出すためには旧来の意識に基づいた思考法・方法論では無理なのではないかと思えます。私たちには意識進化が求められているのだと思えます。私たち人間が青虫から蝶に変容するのです。

さて私たちはこういう状況の中で安全な再生可能エネルギー普及の活動を行ってきました。すでに若狭つながり市民共同ソーラーとしてソーラーパネルを3基設置してきました。さらに今度は今年にわたり小水力発電所を建設する準備を進めてきました。そして今年4月「合同会社おおい地域電力」を設立するところまでこぎ着けました。事業規模は約2億5千万円で出力130kw 約200軒の家庭に電力を供給できる規模であり、30年の継続予定です。

この事業資金を市民ファンド、市民からの協力金、金融機関からの融資によってまかなおうと考えています。すでに合同会社設立に当たって上記とは別に投資をお願いしたところ地元を中心に500万円の出資を頂き、会社を設立することが出来ました。また、県や町より4000万円の助成金の申し出を受けています。

このプロジェクトの目的のメインは発電ですが、実はそれ意外にも過疎の地域活性化と自然環境の再生を目的にしています。地域活性化のためには特別にイベントを開催し、魅力的な情報紙を発行する予定です。自然環境の再生には河川の浄化と皆伐した奥山の再生を目指しています。

この小水力発電所は南川という河川の最上流部の砂防ダムに設置する計画です。しかしこの砂防ダムを造った30年前頃から南川上流の川底の石に微細な泥がまとわりついて付着するようになったのです。そのために水苔が成長しなくなり、鮎の成長が止まってしまいました。鮎釣りを楽しみしてきた地元の人々や関西方面から来る釣り客達は鮎がダメになってきていると言っています。また子どもを川で遊ばせる取り組みをしている地元の子育てリーダーも汚れた石の上では遊ばせることが出来ないと言っています。

そこでこの石へばりついた泥(へどろ?)を除去する方法を京大の環境生物学の先生などいろいろ問い合わせましたが分からないと言ったことでした。ショックでした。

そこでいろいろ調べた結果、EM微生物資材を使ったセメント整流ブロックとキレートマリンという鉄粉・炭・キレート材をつかった河川浄化技術に可能性があることが分かりました。そこでこの9月に実証実験を始めることにしています。

また奥山については関西の山林地主がいい松があるということと6年あまり前に皆伐したものです。グーグルアースなどで見ると皆伐地はのっぺり山肌が広がり荒れ果てていました。そのためその枝や切り捨てられた材が腐り、川に流されて泥の原因になっているのではないかと地元から意見が出ていました。場合によっては植林も考えなければと議論していました。そこで7月に実際の観察が必要だろうとその奥山に分け入りしました。そして驚いたのは皆伐した山の斜面全体が緑で覆われていたのです。雑木やシダ類でした。

自然の再生力に感動しました。ただ一方土砂崩れが何力所かで起こっており赤茶けた姿をあらわしていました。今後緑の再生が進むのかそれとも土砂崩れが進むのか判断は微妙なところでした。しばらく観察を続けようということになりました。次回はドローンで空中からの映像をとろうと考えています。

この「おおい地域電力」は福井市のメンバーと私たち地元おおい町のメンバーが執行社員となりすめています。これらのメンバーは小水力の技術を研究している若手、再生可能エネルギーのトータルコーディネーターを行ってくれる実務経験者、地元の地域再生活動を行っている人物など多士済々がうまい具合に出会うことができ動くことが出ています。意見の違いが生まれかなり激しい議論になることもありますが、この議論が推進力になると思っています。私の立場は環境再生担当です。

先に書きましたように今事業資金を二つの方法で募集しています。

一つは協力金で一口5万円、10年に100回

特産物送付。募集中金額1000万円

* 特産物はおおい町の特産物で若狭つながりソーラーでも実施し喜んで頂いています。

二つ目は市民ファンドです

A号：一口20万円 償還期間10年 配当2%

募集額4千万円

B号：一口50万円 償還期間20年 配当2.5%

募集額6千万円

又協力を頂けるとありがたく思います。よろしくお願ひします。問い合わせは徳庄までお願ひします。

inochi_he@yahoo.co.jp 060-1111-1111

福島のことを感じながら

保養の「これか」のことを考えていく

「た」や「き」通信「28号より」

小野 洋



まずは、恐縮しつつ、私事から...
2011年の春から、毎年6回程度は福島を訪れている
私ですが、この5月に、震災後では初めて、観光をメインにした福島旅行に行ってきました。
一緒に行った妻に、私の生まれ故郷の風景を見せること、福島の被災地スタディツアーを経験してもらうことも兼ねてです。

浜通りでは、震災後ずっと念願だった、スパリゾートハワイアンズでのフラガールの舞台も観ることができました。温泉街の山の中腹にハワイを模した南国リゾート施設—を作るといふ発想にも感心しましたが、炭鉱の廃業という苦難の中で若い女性が体を張って町の復興に貢献してきたこと、そして震災後はそのフラガールたちが全国キャラバンなどの懸命の取り組みをしながら、ハワイアンズを復活させてきたことに、心を大きく動かされました。戦前戦後、そして今も国のエネルギー政策に翻弄されながら、たくましく生き抜いてきたいわきの人たちの息吹きは、湯本温泉街全体で町おこしに尽力している姿からも感じられました。

その湯本にある「古滝屋」のご主人、里見喜生さんに、今回も被災地のスタディツアーに連れていってもらいました。「たこやき通信」の前号でも書いたことですが、一見、普段の生活を取り戻しているいわき

から車で1時間も行かないところに、人が住むことのできない土地が広がっているのです。

一昨年から避難解除となり、駅前の整備が進んで、住宅の建設が進みショッピングモールも営業している富岡町でも、まだ帰還困難区域が残り、立ち入り禁止の立て札と柵が巡らせてある場所がたくさんあります。また、13000人も町の民のうち、帰還したのはわずか800名ほど(2018年11月現在)。ほとんどの子育て世代は避難したままです。その富岡町を通る国道6号線から見ると、駐車場に草がぼうぼうと生えた道路脇のホームセンターの廃墟のような姿に、妻も「被災地の現実には来てみたいと実感できない」と言っていました。

そのスタディツアーの感想を、いわき市内のパン屋さんのイートインコーナーで妻と話していると、大熊町から避難しているという女性に声をかけられました。いきなりでびっくりしたのですが、どんな想いで震災後を過「して」きたかをいろいろ話してくれました。県外から被災地に関心を持って訪れた私たちに、ふだん地域の人たちにはしにくい話を聞いてほしかったのだらうと思います。

その方に、思い切つて東京オリンピックをどう思うか尋ねたところ、「勝手にやって下さい、って感じ」というのが答えでした。

旅の後半には、昨年暮れに人形劇団「赤いトマト」公演(※)に来てくださった大河原さん夫妻を三春町「えすぺり」に訪ね、その後、私が生まれ、中学生まで過「した会津」移動しました。

古い街並みや文化、そして風光明媚な自然が残る会津の姿には行く度に癒されます。幼い頃に家の目の前にあった磐梯山の姿も、今回はドライブがてら、

様々な角度から眺めることができました。

しかし、その会津も、原発事故の影響から無縁ではありません。生まれた家があった場所のすぐ近くにある保育園の園庭には、震災後ずっとモニタリングポストが据えられたままです。示された線量は0.1mSv未満で関西の自然放射線量とそう変わらないものの、わずかながら原発事故の影響が残されています。そしてなによりも、このモニタリングポストがあることで、廃炉作業中の原発に不安を持つ福島県民が安心を確認できるという現実があるのです。

子どもの頃、母親が山に入って取ってきた山菜の深い味わいは今も舌の記憶に残っています。しかし、会津で採れた山菜から国の基準を大幅に超える放射性セシウムが検出されています。

懐かしく、愛しく、そして切ない福島を感じ、改めてその複雑な現実を確認する旅となりました。

今年2月、311受入全国協議会(うけいれ全国)保養ワーキンググループ主催による「ほよとと全国交流会」が京都で行われました。今回は「なんのためか」の保養?—これからの保養のあり方を考える—というのがメインテーマで、復興が(表向き)進み、一見何もなかったかのような日常があり、そして、実は様々な問題が残され(隠され)ている被災地の状況から、保養の意味や今後のあり方を考えていく貴重な機会となりました。

福島市・郡山市などで緻密な空間線量の測定を続けながら、保養とは表向き違うスタイルで福島の子どもたちと県外の支援者との出会いと交流の活動を進めてきた吉野裕之さん、障がいを持つ子どもの保養受け入れに取り組みつつ、福島に足繁く通つて

被災地のリアルタイムの現状を関西の人たちに伝えて
いる宇野田陽子さん、福島原発事故後の保養につ
いて記した大著『原発事故後の子ども保養支援』の著
者であり、保養相談会の実施に尽力してきた足田香
澄さんという三人の素晴らしいメインスピーカーを
迎え、全国各地で保養に取り組んでいる団体の方た
ちとたいへん有意義な意見交換をすることができま
した。

三人のお話からは、震災後続けてきた保養受け入
れの活動にはかけがえのない意義があったこと、そし
て今、当初の緊急避難としての保養の意味は変わり
つつあっても、今の日本社会の状況の中でひととき重
要な意味を持つ活動になりうることを読み取ること
ができました。

今、全国の保養団体の多くが困難と向き合いなが
ら継続の努力を続けています。私たちもまた、原発
事故という未曾有の大災害の残した傷跡に対して、
そしてその根源にある日本社会の様々な課題に対し
て、意味のある取り組みを息長く続けられるよう、
話しあい、工夫していきたいと思っています。

※「えすべり」の大河原さん夫妻と人形劇団「赤いト
マト」について

昨年(2012)年12月15日、三春町の「えすべり」の大河原
さん夫妻による人形劇と歌の関西公演の一環として
たこ焼きキャンプの宿舎としても使っている須磨の家
で神戸公演を行いました。来場者は50名ほど、大広
間がいっぱいになりました。思った以上に現地の農家
が体験したことの深刻さ、その苦しい思いをストー
リーに表現されていて、今まで何度も福島に通って、や
つと少しずつその苦しみが推察できるようになってき
たと思っていた自分が、まだ何もわかっていないとい
うことを思い知らされました。

お知り合いの牧場主の方から聞いたという話、
『殺処分』とたった三文字だけど、牛の血管に薬剤を
注射すると心臓に泡ができて、ものすごい苦しみの
中で死んでいく。その時の泣き声は今も寝る時に聞
こえてきて耳から離れない。

大河原さんはルワンダへの支援などにも関わってお
られ、未来のことを考えて行動している姿に感銘を
受けました。

野菜とパンの店 えすべり

<https://ja-jp.facebook.com/esperichikaraya/>

ジャーナリストでもある土井敏邦監督による長編
ドキュメンタリー映画『福島を語る』にも、大河原さ
ん夫妻がインタビュアーに答えるシーンがありました。
福島で有機農業を続ける想いを切々と語っていまし
た。この映画では、母子避難した母親、福島県内の仮
設住宅に住んでいる高齢者、米の生産者、避難先の
会津で避難した教え子と交流を続ける教師など、1
4名が登場し、その体験と思いを語っています。不条
理な事態への怒りを持って、国や東電に抗う人たち
も登場します。映像は、延々とその方たちの証言を
映したのですが、一人ひとりの語りが胸に迫り、1
70分をとっても短く感じました。ぜひ観てほしい映画
です。

映画「福島を語る」

<http://doi-toshikuni.net/fukushima/>

伊勢便り No.20

吉田 博明

20世紀当初、4300万人だった日本の人口は、
世紀末には1億2千万人へと、3倍に増加しました。
また、経済も、東洋の小国だった日本は、GDP世界

第2位の大国へと奇跡の大躍進をとげました。ところが、
21世紀に入った2008年、人口がピークアウト
を迎えて以降、人口減少に転じ、現在すでに、2百万
人減少しました。経済も、2019年8月16日世紀、
世界トップ企業100社のうち、トップ10に7社登場
していた日本の企業も、現在では50社以内に1社が
とどまるだけで、第4次産業革命で産業構造が激変
する中、GDPも世界第3位へと後退しました。

また、中小企業庁は、2025年までに、中小企業
の3分の1に当たる127万社が後継者不足などで
廃業、22兆円の経済損失と650万人の雇用が失わ
れると伝えていきます。厚生省は、世界的に例を見な
いスピードで、高齢化・少子化が進んでいる日本の人
口は、2050年には1億人を割り込み、世紀末には
6000万人へと半減するとの人口トレンドを示して
います。

一方、世界人口は、20世紀の初頭、15億5000
万人だったのが、世紀末には61億5000万人へと激
増しました。現在、国連が公表しているトレンドでは、
21世紀末には120億人へと倍増することを示して
います。マクロ的には、経済指標を大きく左右する
人口は、よほどの突発的社会変動が発生しない限り
大幅にずれることはありません。

このため、21世紀を生きる私たちは、国内では人
口が半減、世界では倍増し、しかも、産業構造が激
変する中、まさにボートと生きている場合ではないとい
えます。ミクロ的な人口問題は20世紀、日本の人
口が1億人を超えた時、65歳以上の高齢者が660
万人だったのが、2050年人口が1億人を割り込む

時点で、3800万人（人口比38%）に達すること、逆に労働生産人口（18歳〜64歳）が8000万人から5000万人へと減少することから、社会保障費増大負担をカバーするための制度改革が焦点となっています。

政府は経済活性化を推進するため、地方での「ひと・しごと・まちづくり」をきっかけ、既存事業の6次産業化・サービス産業化、先端技術を活用したテレワーク・コミュニティやスマートシティなどの地方創生化に拍車をかけています。また、2018年、海外からの訪日観光客が3000万人を超えたのを受けて今後、東京オリンピック開催機会に、2020年4000万人、2030年6000万人へと上方修正し、観光立国へ向けた取り組みを鮮明にしました。

政府のこのような方針とは裏腹に、伊勢での日常生活では、活発な反応を示した動きを感じることはあまりありません。背景には、現状の居心地の良い暮らしの中では、時代認識や意欲的なチャレンジ精神が影をひそめ、保守的空氣が支配的になっていくこと、これまでの教育制度が自主性・創造性・コミュニケーション能力の育成にはマッチしていなかったこと、行政などが先端技術と経済の調和のとれた社会や生活のマスタープランを示せないことなどがあげられると思っています。とはいえ、ピンチはチャンスで、社会改革や事業は、トップに立つ人の見識やそれを支える人たちの意識次第で成否が左右されてきたことを歴史が物語っています。

厚生省は、これから高齢期を迎える人たちの70%以上は元気な健康者であると伝えていきます。こ

れらの高齢者は、20世紀に地方から都会へ移住し、農耕社会から工業化社会への産業構造転換を支え、GDP世界第2位へ押し上げた人たちです。しかも、世界的に知られた工業化モデルを推進した職務経験・組織運営・海外体験をした人材です。「時は人を待たず」といわれています。当面、地方創生・観光立国を支える人材として、キャリア豊富な高齢者を積極的に活用できないかと、思いを巡らせています。

また、2012年から、長野県で一番小さな自治体で開催されてきた「小布施町若者会議」の活動には、時代の壁を打ち破る若いエネルギーの台頭を感じさせられてきました。会議はコミュニティデザインやIT技術を学んだり、研究している35歳以下の若者が地元住民の協力を得て、観光・コミュニティ・食と農・教育などの分野でのフィールドワークを通して、ベンチャー事業を起業したりして、地域活性化の実績を積み上げてきました。今年で7回目を迎えました。毎回全国から200名以上が集う盛会で、現在、小布施町には人口（12,000人）を大幅に上回る、年間80万人が訪れています。そして、「若者会議」は次第に全国的な広がりを見せてきて、現在15か所の地域で開催の準備中か、すでに実施されてきています。

2019年1月、日本を代表する競泳の池江璃花子選手がオーストラリアでの強化合宿中、体調を崩し、急遽帰国しました。検査の結果、2月12日、白血病を発症したことを公表したため、世間では衝撃的な驚きを受けました。翌日、自身のツイッターで「私は、神様は乗り越えられない試練は与えない。自分に乗り越えられない壁はないと思っています。」と

のメッセージを発信しました。このメッセージは、日本でも比較的知られていますが、もとは、キリスト教新約聖書の一節に由来しているそうです。池江選手は出典までは知らなかったと思いますが、自分なりの言葉で心境を伝えました。病氣・怪我・事故は時を選ばず誰にでも起こります。科学的知見や医学は病氣のメカニズムや治療方法については、説明することができません。しかし、「なぜ私が？」「なぜ今？」についてや、苦しみに対しての生きる力や人生の意味については答えることができません。

私たち日本人は、結婚式の60%は教会で、葬儀の90%はお寺で、初詣は神社へと、日常の状況に応じて、多くの宗教に由来した行事の中で暮らしているにもかかわらず、宗教には無関心であると言われることがあります。背景には、明治時代、プロテスタント系のキリスト教徒が教会で礼拝を行なう習慣を示す「dog」を宗教と翻訳したこと、戦後、宗教色を遠ざけ、科学的知見を重点とした教育を拡充したこと、反社会的事件を引き起こしたオウム真理教などのマイナスイメージが影響していること、宗教学者は指摘しています。

世界的ベストセラー「サピ

エンス全史」の著者 イス



k29214519 fotosearch ©

・ラエルの歴史学者 ユヴェルノア・ハラリ氏は、人間は「フィクション」を信じているという、他の生き物には見られない特性を持っていて、いろいろなイデオロギーと同様、宗教もその一つだと述べました。私たちは宗教に無関心だと思っても、実は、いろいろな宗教が混在する世界に寄り添って生かされていて、もと

もと、宗教が存在しない国はありません。

現在、地球上で暮らす70億人のうち、宗派の中での生活習慣・食のタブーなどの違いを一括りにすると、宗教人口は、キリスト教22億人、イスラム教+ユダヤ教16億人、ヒンドウー教9億人、その他、日本の神道のような民族固有の宗教を信奉する人で構成されていると言われています。つまり、一宗教のキリスト教徒とイスラム教徒だけで世界人口の50%以上を占めていることになりました。

私たちは、他の国の人々もみんな同じように物事を見ていると思いがちですが、宗教の違いによって、価値観・人生観・世界観が異なるため、お互いに相互理解を深め、より豊かに生きるために、宗教に対するの関心と選択に真剣に向き合うべきではなでょうか。

今回の教室 講座めぐりは

4回シリーズで開催中の河野典子先生の

組紐講座について

- ① カタカムナ学校の八木美穂子さんから受講しての感想を寄せていただき、
- ② 組紐のお弟子さんの大橋しのぶさんからは河野先生との出会いのことなどを書いていただきました。
- ③ 最近新しく始まった二つのクラスから
第1・3木曜日2時半からの「ゆがみとりメツソド」講師の上田佳津子さん、
- ④ 火曜日3時からと金曜日19時からの「自衛術」講師の神田勝久さんからのお話です。

「カタカムナと縄文文明から生まれた組紐講座」を受講して 八木 美穂子

別名The Kumihimo Storyと呼ばれる大ヒットアニメ映画「君の名は。」で、「糸」のついた地名「糸守」という舞台で、「組紐」が大事なモチーフとなっていました。このおかげで若い世代の方々にも、広く知られるようになりました。

組紐場面をしっかりと見ていた私としては、映画公開のそのあと、その組紐の専門家で、和文化に広く精通されている方に出会えるとは思いませんでした。河野典子先生は、小笠原礼法のご指南をされ、皇室とその文化にもつながり、それ以外に、「神の数学」(佐藤敏夫氏)、そして吉野先生のカタカムナを学んでおられ、それらを総合して究めていらっしゃいます。

河野先生とは、昨年2018年から発会した吉野信子カタカムナ研究会で、同期生としての光栄なご縁をいただきました。卒業後、「縄文しんしん塾」の一環としてサラ・シャンティで連続講座が開かれると聞き、心待ちにしておりました。次々と文字通り文化を「ひもとく」エキサイティングな講義となっています。そのいくつかを書いてみたいと思います。

☆絹糸は もつれても必ずほぐれる！

糸を使うと、気をつけていても、もつれてしまうことがあります。それでも、河野先生によると、根気よくほぐしていくと必ずほぐれるそうです！お蚕さんが産み出した繭からいただいた絹、大事に使いたいと思います。

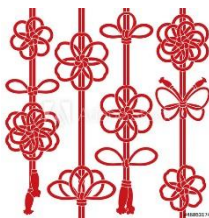
☆なぜ組紐は(高度な技術が求められるのかかわらず)「道(どう)」と呼ばれないのか？

河野先生の長年の疑問のひとつが、吉野信子先生の解説で解きました！

剣道、華道などのように、自分の外に向かうものは「道(どう)」。組紐は、台の中央の穴を通して、下にできた紐が形成されていきます。つまり「内に」伸びていくので、「道(どう)」とはならないそうです。

くしくも、上皇后陛下も学ばれた有職組紐司「道明」(創始者の苗字でもある)に「道(どう)」が保存されていました。

正倉院宝物の中の 組紐の復元に携わられた河野先生からは、その現場での貴重なご体験をお話されます。全国の寺社にち



なむ独特の模様の解説も 興味をひかれました。多くの組紐作品も拝見できます。

講義を超えて、文化解明まで進んでいくこの講座はまだ後半2回あります(9月と11月)！
「ごいっしょに学びませんか！」

河野典子先生と私 「組紐講座二回目を終えて」

神奈川県在住・大橋 しのぶ

社会現象ともなったアニメーション「君の名は。」から早三年。今年の夏は新海監督の新作「天気の子」が全国の映画館で上映されました。そして映画の封切日である七月一九日の二日後には、河野典子先生の組紐講座(二回目)が六甲の健康道場サラ・シャンティにて開催されました。

三年前の「君の名は。」では、現代の若者には殆ど認知されていなかった「組紐」という伝統文化が大きく取り上げられていて、物語のテーマを暗に提示するという大切な役割を果たしていました。この映画を見た三年前、組紐の事を周囲の人に聞いてみると

私（四六歳）の親世代（七十代くらい）の方々は、「組紐？ああ、あれね。むかし田舎の実家とか近所の家にはよく組紐があつたから知っているよ。」というような返事が多く返ってきました。しかし私から下の世代では殆ど組紐や組紐の存在を知る人はいませんでした。それから三年、今ではネット上には組紐の情報が激増し、主人公の三葉ちゃんと同じ組紐の髪飾りやブレスレットを作ってみました、という若者の投稿もよく見かけるようになりました。そして私の周囲にも組紐の存在を知る人がかなり増えてきました。この映画は「組紐」の存在を世間に大きく知らしめるという役割も担っていたようです。

かくいう私もこの映画を見て、初めて組紐という存在をきちんと認識し、また大いに興味をかきたてられた一人でありました。映画のラストシーンでは感動の涙を流し、エンドロールでは嗚咽をこらえながら、「いつか機会があつたら組紐を習ってみたいなあ。」と思つた事を覚えています。

そしてそれから約七か月後、河野典子先生との運命の出会いが待っていました。隣の鎌倉市で開催されたある勉強会で、偶然隣合わせた上品な淑女こそが河野先生でした。

講師の方が「心から楽しく幸せだと思える生活を送る事が大切です。」というような事を皆に向けて言

つた時に、河野先生が本当に幸せそうな表情で、「わたしは毎日、大好きな組紐を組んだり勉強したりして、充実した日々を送っていますので、とても恵まれて毎日が楽しいです。」とおっしゃったのが爽やかな印象として心に残っています。

そして河野先生は、「組紐ってなんですか？」という講師の方に簡単に組紐の説明をすると、「以前、正倉院の組紐復元作業にも携わつた事があります。」とおっしゃいました。それらの会話を聞いて私の心のセンサーは激しく反応していました。組紐って、あの「君の名は。」に出てきた組紐の事？そして正倉院つてまさかあの正倉院の事？！隣にいた私はこれ幸いとあれこれと河野先生に質問をさせていただきました。そして勉強会の終了後に三十分だけお茶をして帰りましょう、という事になり、二人で入つた喫茶店で三時間以上も話し込む事になったのでした(笑)。

お名刺を拝見すると河野先生は組紐の講師の他にも、小笠原流礼法・小笠原家茶道古流講師・志野流香道なども教えて下さるお教室を主宰している事が分かりました。そして七十代後半の先生が、組紐の為なら例えお一人でも新幹線に飛び乗り、日本中の神社仏閣などを訪れて調査を続けていらつしやる事も知りました。私は早速後日、東京の河野教室を訪れシステムやお値段をお聞きすると、本当に信じられないくらい良心的な価格で教えていらつしやる事が分かり、またお人柄にも大変感銘を受けた私はさつそく入門させていただく事を決めたのでした。

河野教室の組紐レッスンでは最初から糸を玉(おもりに)付けて組んでいく形でも、糸繰り(糸を小枠に

繰っていく作業)や経尺(へじやく)「帯締め一本分の長さにそろえる作業)など、糸を組む前の下準備の作業(へきり)からでも本人の希望に合わせて教えて下さいます。実はへきりの作業が一番大変なので、ともかく映画の雰囲気味わいたい！という方は、玉付けあたり(映画で四葉ちゃんがしていた作業)から教えていただき、丸台で組ませていただく(三葉ちゃんがしていた作業)のがお勧めです。

そして何と言つても河野教室で組紐を習う醍醐味は、糸を組みながら河野先生の組紐物語を拝聴できるといふ事です。

一般的には組紐は古代に中国から日本に渡つてきた技術だとされていますが、河野先生はそれよりもずっと前から組紐は我が国に存在していたという説を持つていらつしやいます。それは正倉院の組紐復元プロジェクトに参加し、その後も毎年秋に開催される正倉院展にたびたび訪れては出展される組紐の鑑賞を重ね、また日本中の神社仏閣の組紐調査をされた先生の長年の実績から導かれた説であります。

日本の組紐は日本人が創作したものではないか縄文時代から、いやもっと前の超古代から…。組紐は先人達が潜象世界の神を組紐に映しなのではないか、

こんな不思議なお話しを伺いながら…、カランコロン



礼機まほろばの霧山水

と組合にあたる玉の音を聞きながら…、先生の部屋に置いてある霧山水からチヨロチヨロと流れる水音に耳を澄ましながら…、心静かに組紐を組んでいると、まるで本当に「君の名は。」の映画の中にいるような気分になってきます。

「君の名は。」で印象的だったシーンの一つに、主人公の三葉(但しこの時、中身はもう一人の主人公の瀧くんに入れ替わっていた。)が妹の四葉と共に。祖母である一葉に連れられて宮水神社の奥宮にお酒を奉納しに行くシーンがあります。そこで一葉は孫の二人にこんな話を話します。

「三葉、四葉、結びって知ってるか？土地の氏神様をな、古い言葉で結びって呼ぶんやさ。この言葉には深い意味がある。糸を繋げる事も結び、人を繋げる事も結び、時間が流れる事も結び、全部神様の力やわしらの作る組紐もせやから神様の技、時間の流れそのものを現しとる。寄り集まって形を作り、ねじれて絡まって、時には戻って途切れまた繋がりが、それが結びそれが時間。」

そんな話をしながら三人は奥宮に到着し、三葉と四葉が作った口嚙酒をご神体に奉納します。そしてその御神酒の容器の蓋にはしっかりと二人が作った組紐が巻かれていたのです。

この二人に祖母の言葉がどれくらい深く伝わったのかは分かりませんが、昔からの伝統や文化というものにはこうやって祖父母から、またはかつては必ず村々にいた語り部のような方々の口を通して後裔に伝わっていったのだという伝統的な雰囲気や、現代の

若者にも強く印象付けたのではないのでしょうか。

あるインド楽器の演奏家の方(ジミー宮下さん)は、あの映画の一番意味のあるシーンは、祖母が部屋で組紐を組みながら孫である二人に宮水神社の歴史や伝説などを語っていたところだとおっしゃっていました。私も同感です。

歴史や伝説というものは物理や数学のような再現性があるものではないので科学的に証明するという事はもしかして出来ない分野なのかもしれません。それでも歴史や伝統を後裔に伝えていくという事が大切なのだ、と私の尊敬する、ある自然食品店の会長様(札幌まほろば、宮下周平氏)もおっしゃっていました。本当か嘘かという前に、先祖からの伝統や伝説を伝える大切さ、「情緒」の心の重要さを、ご著書の「倭詩」などで何度もおっしゃっています。

消えてしまった文化や歴史、証明しようもない伝説。アカデミズムの世界では一笑に付されてしまうような説でも、それが先祖から

脈々と伝えられてきた伝統ならば、そしてそれが人と人を引き離すようなものでなく、美しく情緒あるものであるならば、なおさらの事、科学的な証明はできなくても謙虚に受け止め伝え続ける姿勢が大切ではないでしょうか。

河野先生はそれを実践されている稀有な存在のお



一人だと思っています。

そしてそれを理解して今回、河野先生に組紐講座を依頼された、サラ・シャンティの清水正博さんにも敬意を表させていただきます。

令和という新時代を迎えた今、天地宇宙が望むのであれば、それらが科学的に証明される日が来るのかもしれない。私もそんな未来が来るのを楽しみに、河野教室で組紐を組みつつ、また人と人を結び、氏神様と人を結び、言葉を結び続けるという大切な時を紡いでいけたらと思っています。

※札幌まほろばの霧山水現在は販売されていません。

「ゆがみとりメソッド」講師上田 加津子

7月から『ゆがみとりメソッド』講座をスタートさせて頂きました。上田加津子と申します。

大阪でヨガと姿勢のサロン「シャンティ」を主宰しています。4年前にMCTレーニング(加圧)を導入し、ダイエツト目的の



生徒さんも多く来店されるようになりましたが、順調に変化される人となかなか変化の出ない人がいて「この差は？」と考えるうちに「姿勢」が影響していることに気づき、自分で出来る姿勢矯正「ゆがみとりメソッド」を伝えることになりました。

姿勢矯正と聞くと、整体院などの施術をイメージされる方が多いと思いますが、ゆがみとりメソッドは

自彊術に思うところ

講師 神田 勝久

『自分のからだは自分で治す』を目指しています。専用のベルトを6〜7本全身に巻き、ヨガマットに寝て足底を壁に着けてふんばりながら、ゆっくり呼吸を繰り返します。すると…不思議…体の歪みが整い、肩こりや腰痛などの不調が改善され身体が軽くなります。

重力からの悪影響で、外へ外へと引つ張られ歪んで硬くなった筋肉。この筋肉は血液やリンパの流れが悪いだけでなく、骨や関節をひっぱり歪ませます。そして内臓の位置もずれてしまふんです。全身をベルトで束ねて簡単なエクササイズをすることで、筋肉が中心に集まり骨や関節、内臓が本来あるべき所へ戻り、様々な不調が解消されていきます。

覚えてしまえば、日々歪む身体を毎日自分でリセットできますよ。食事制限やつらい腹筋運動しても凹まないぽっこりお腹。これも姿勢が大きく関係しています。姿勢(特に反り腰)を改善することで、下垂していた内臓が元の位置に戻りお腹は凹みます。

ゆがみとりメソッドを継続された受講生さん達から体温が1度上がりました！「姿勢が良くなったと言われます！」便秘が解消されました！膝が痛くて出来なかった正座が出来ます！肩こり、腰痛が気にならなくなりました！痩せた？と聞かれるようになりました！ぐっすり眠れるようになりました！と嬉しい体感がいっぱいです。

ゆがみとりメソッドを一人でも多くの人に知って頂き、皆さんの健康寿命を延ばすお手伝いが出来れば嬉しいです。

自彊術(じきょうじゆつ)の事を初めて妻から聞いたのは、10年前私が45歳の時である。自彊術という名前すら知らなかった。大正時代に天才あんま師と呼ばれていた中井房五郎という人が、考案した健康体操との事である。妻は幼少から喘息などを患い

虚弱であった。大人になってからは、健康のために色々な自然療法などを試したらしい。自彊術は東城百合子氏の名著「自然療法」の中で知り、直感的にこれは良いと思い、本を見ながらやってみたが、良く分からないまま、やがてその時は止めてしまったらしい。



自彊術の考案者中井氏が、わたしと同じ治療家であったという歴史にも興味があったが、そのころメタボ体型が気になりはじめていた頃でもあったので、教室に通い始めるまでに、そう時間は掛からなかった。ところが、門戸を叩いた教室は、先生も生徒も皆女性。聊か抵抗があったのは事実である。体操自体も、その時は正直に言うの良いのか悪いのかさえ、良く分からなかった。しかしながら、今となっても本当になぜか分からないが、何となく一応真面目に通い続けた。直感的にそう感じたに違いない。

週1日の教室に通い始め2年が経った頃、その日は頻繁に身体がふらついた。血圧を測ると170-110 O、年齢40台にしては明らかに高い。一般的には直ぐに降下剤で対処療法となるが、鍼灸と指圧の臨床

家である自分としては、それにはやはりためらいがあった。いわゆる本態性高血圧である。

色んな説がるものの、要はストレスと老化が原因と、個人的には思っている。臨床でもこれまで何度もお目に掛かった事はあるが、残念ながら鍼灸指圧でもつても、顕著な効果が得られたことは少ない。つまり難治なのである。薬は悪と言うような、ありがちな考えは無いものの、では他にはどんな手がかるのか…。そうか…。自彊術があった…。これにかけてみよう。

改めて自彊術について調べなおすと、考案者中井房五郎氏が言うには、自彊術を日に朝晩2回行うと、万病が克服できると明記されており、凄まじいその自信が伺える。自彊術は31種類の動作で構成されており、クールダウンの繰り返し動作も含めると、全44動作で終了し約30分を要する。初心者も熟練者もやることはそれだけである。

奥義は深い、それだけである。このシンプルさがすごくいい。ところが、これらを毎日朝晩2回行うのは結構ハードルが高いが、当時の自分には他に選択肢は見つからず、とにかく騙されたと思ってやってみた。すると10日後には血圧が120-60に下がった。まことに驚きである。これほどまでの顕著な効果は、全く期待していなかった。

天邪鬼な自分は、いたずらに自彊術をやめてみた。すると、じわりじわりと、また血圧が上がっていくのである。自彊術を生涯やり続けるに腹を括った瞬間である。それ以降、日に二回の自彊術は、ほぼ欠かし

たことは無く、おかげで健康体と健康体系を維持し続けている。

ちよつと歴史を振り返つてみたい。考案者中井氏は1877年(明治10)に香川県は現在の坂出市生まれ。幼少時は無類の腕白で尋常小学校を2年次で退学させられている。その後、四国八十八箇所霊場の第八十一番札所でもある、坂出市五色台の白峰中腹の白峯寺の、小僧になるも悪戯が過ぎて、もはや修行することも無く、自由に山に入つては動物と戯れるなどしながら、寺での生活を送る。

その後、自由が過ぎて13歳のとき、いよいよ山で遭難してしまい、独りで山中の動植物を摂食しながら4年の月日を送る。その山中では、様々な神秘的な体験もするようであるが、ある夢をきっかけに、自分の生まれ育つた村に戻ることを決心する。その夢では、神様らしきものから、自分は今後世の人助けに人生を捧げる事を諭され、誰のどんな病気で治せる力があることも、確信させられたそうである。手の付け様の無い腕白青年になぜそのような能力が備わつたかは、摩訶不思議なことである。村に戻つた日、早速その前日に亡くなった姉の息を、中井氏独特の治療で吹き返らせ、人々を驚かせたのだと言う。これが中井氏にとって最初の治療となる。17歳の時である。

その後は、坂出市内に4箇所の道場を開き、山中生活から独自で習得したであろう柔道と剣術の指導を行う傍ら、道場に通う人たちに向け、打ち身や捻挫など怪我の治療も担う。ある日一念発起し、道場の全てを閉め、朝鮮から中国に渡る。

そこでは日々多数の患者と接し、のべ30万人に治療を施し、自分の治療や透視能力に確固たる自信を持ち帰国する。中井氏28歳の時である。直ぐに坂出市に治療所を構え、難病を抱えた患者たちを次々と治したそうである。その後、中井氏33歳の時、現東京都墨田区に治療所を構え、中井氏独自の治療に専念する。中井氏の無類の治療と透視能力についての逸話は、今も数多く存在している。

そんな天才治療家中井氏のもとには、毎日全国からの患者で溢れ返つていたと言ふ。当然中井氏ひとりでは診切れぬ。

そこで、中井氏にふと名案が浮かぶ。患者自身が一人で出来る自己療法なるようなものは出来ないものかと。すぐさま中井氏はその31種の動きをわずか1時間程で作つたとされている。中井氏の患者の一人で懇意にもしていた、十文字大元はそのことを大いに喜び、十文字氏は事業も大成が収め色んな意味で余裕もあつたことから、十文字氏



がその多くを出資し、自彊術の道場を造り中井氏にその指導にあて、世に広める地道な活動を行う。十文字氏は自彊術の名付親でもある。以上、歴史については、中井氏本人の談話によるものである(十文字大元遺著「自彊術の真髓」より)。

因みに、埼玉県にある十文字学園の創立者は十文字氏の配偶者十文字ことであり、身体教育の一環として、学園創立以来自彊術を毎朝の日課としているようである。そのせいかどうかは定かではないが、十文字学園の高校女子サッカー部は、全国優勝をする

ほどの強豪チームである。

自彊術は、先にも述べたが基本的に31種の動きで構成されている。1動は2動のための準備、2動は3動のための…といった具合に最後まで構成されており、実施者個々の状況に合わせさえすれば、老若男女の誰にでも出来てそれなりの効果が期待できるようになっており、その内容と構成はまこと絶妙であるとしか言いが無い。また、がんばらず、サボらず、続けることが非常に大切である。これらを守りさえすれば、まさしく中井氏が豪語するように、本当に万病が克服できるのだということを、自彊術1年目にしてようやく実感している。また自彊術から得られた知識や能力が、わたしの鍼灸や指圧を用いた臨床においても、非常に大きく役立たせていただいている事は言うまでもない。

念のために確認しておきたいが、自彊術は決してスポーツでもなく芸術でもない。また他人と比べる必要も全くない。自彊術はあくまで自己療法なのである。実施者個々に目標がある筈である。それと以下は、中井氏に聞かれると叱られるかもしれないが、日に2回というペースにも、必ずしも拘る必要はないと個人的には思っている。現代人には現代人のペースがあるのである。そこは令和のペースで、臨機応変で良いのではないかと思つている。太くて短いよりも細長くとも続けることが、より大切に感じている。

当時は元首相の大隈重信や、医師で政治家の後藤新平なども、自彊術を絶賛しており、日常の習慣としていたようである。元プロ野球選手の故水原茂は、読売ジャイアンツの現役時代から自彊術を行つて

おり、東映フライヤーズ(現北海道日本ハムファイターズ監督時代に、自彊術をチームの必須トレーニングメニューとして導入している)。

また、第二次世界大戦までは、国民体操として全国津々浦々行われていたようであるが、戦後、欧米生活様式が日本列島にどつと入って来てからは、廢る一方であった。後に内閣府管轄 公益社団法人 自彊術普及会によって、自彊術は完全に息を吹き返し、今日に至っている。自彊術が生まれて、今日までの100年余りの間、中井氏が当時考案した自彊術が、ほぼそのままの形で現代に受け継がれていると想像するが、それは同普及会の最も大きな功績のひとつに違いない。

自彊術を指導させていただくようになって4年になるが、現代医学では難治性の高い疾病を抱える数多くの生徒さんたちが、自彊術を続けることで確実に良くなっている様子を日々目の当たりにしている。出来なかつた動きを必死にやる必要は全く無く、出来る動きだけをただ続けることで、後に出来なかつた動きが徐々に出来るようになる程度のことなどは、日常茶飯事である。自彊術の目的はその人にとつての現状以上の状態を獲得することである。

わたしの場合は、高血圧の問題の他に、メタボ体系の問題があったが、半年で約10キロの減量に成功した。日に2回の自彊術しか行っていない。生徒さんの中には、痩せ過ぎていた人が、自彊術によって逆に肥えたというケースもある。つまり自彊術を続けることで、例えば体重であれば、その人にとつての健康体重に向かうという傾向があるようである。妻の喘

息も日々の自彊術でほぼ完治している。ただ、残念ながら去っていった生徒さんたちが、なぜ去っていたのか、またその後どうされているかは、把握できていない。

この自彊術が、読み書きができなかつた中井氏が本当に1時間をつくつたのだとすれば、決してそれは考えて出来たのではないと思う。もつと神秘的な異次元の何かか、或いは動物的・本能的な勘なのか、またはそれら全てからか、とにかく学問や思想・宗教などを超越したところで、出来ているように昨今強く感じるのである。上手く言えないが、大脳が発達した2足歩行の人間にとつて、自彊術のその動きは、普遍的に必要なのかもしれない。だとすれば、中井氏の山中で4年もの月日をたつた一人で生き延びたという経験と、それら学んだ多くの事柄や、神秘的な体験などが自彊術の中核を成しているに違いないように思う。

僭越ながら、中井氏には我々に自彊術を残してくれたことに心から感謝しつつ、今後も治療家として、自彊術の後継者の一人として、更に自彊術の探求のために精進していく所存である。ひいては、地球を健康にし、それが平和をもたらせることに繋がれば本望である。もしそれに付き合ってくださいるのであれば、それは何人たりとも大歓迎である。少しでも興味があれば、是非教室に足を運んでいただきたい。この度は最後まで読んでいただき心から感謝の気持ちでいっぱいである。今後機会があれば続編も楽しみにお待ちしております。まことに幸甚である。

編集後記

清水 和子

8月に1週間サラ・シャンティも夏休み!いつもと違うことをしようと思いました。朝起きてからすぐに2階の道場や1階の事務所に降りて行かないで自宅のことを優先する。前の道路の掃除を休む。こんなことだけでも夏休み気分がわき、心が休まりました。

大好きな青春18きっぷを使って、前から気になっていた琵琶湖の北東にある余呉湖を夫と訪ねました。余呉という駅近辺にはお店がほとんどありません。町ではいっぱいあるコンビニもなく、観光事務所もお盆ということでお休み。賤ヶ岳というところに登りたかったのですが、おむすびももたずにいったため、断念。長浜に引き返して船で渡る竹生島に行きました。724年に御神託を受けた聖武天皇の命で、僧行基が宝厳寺を建立したそうです。宝物殿も見ごたえがありました。

サラ・シャンティで仏像彫刻のクラスをされていた龍田果澄さん作の「逍遙」という菩薩像に似たスラリとした聖観音立像に見とれました。檜の一本造りで平安時代のものでした。

いつも汗をかきながら夕飯の用意をしている日暮れときには長浜の湖畔の公園のベンチでセミの抜け殻を数えながら、海のような琵琶湖を眺めていました。

長浜でゆっくりし過ぎたため、普通電車を30分待つことになりました。いつもはすぐそばの六甲の駅から10分おきに出る電車で甘やかされているので、少し都会を離れると、電車も一時間に一本くらいなのだ、再確認する旅でした。